

(連載「ワイワイガヤガヤ経営品質」)

### 三重県経営品質協議会運営委員長 長友 隆司 (Kairos 社長)

三重県での経営品質活動は、行政経営品質、学校経営品質、そして企業における経営品質向上活動があると以前に書きましたところ、「ちょっと待ってえな」とお声がかかりました。「僕らもやってるやん」と農協さん。

そうでした。農協、即ちJAも積極的に経営品質向上活動に取り組んでいます。JAグループ、いつもどおりの呼び方で言うと「農協さん」は僕ら地方に住む者にとっては割りと身近な存在ですが、都会のお住まいの方々にしてみると知っているようでも馴染みの薄い組織ではないでしょうか。JAは営農指導や農業資材、お米や野菜など農作物の一括出荷などをやっている農業関係の組織だろう。とそんなにサッパリおっしゃいますな。

それも確かにそうですが、最近ではガソリンスタンドや小売店舗、葬祭、福祉など生活関連での幅広い事業を展開している他、金融・共済を手がける総合事業者としての側面が大きいと思います。

「儲かってエエなあ」と水を向けてみますと「アホ言うたらアカン」と厳しい顔が帰ってきました。「農業関係はホンマに厳しい状況なんや」お話が続きます。「担い手と言われる農業後継者や営農者が減ってきてる。三重県で言うと平成12年には6万6000あった農家の数が17年には5万9000にまで落ち込んでる」なるほど構成員が減ってきてるといわけやね。「JAですと訪ねて行ったら、昔やったら座敷にすぐ上げてもらえた。けど、今は玄関払いも珍しい。組合員やという意識が薄れてきてる」地縁血縁が効かないか。

「高齢者は信頼してくれるが、若い世代は割り切ってる」それならこっちも割り切ってビジネスすればええのと違う？「農業協同組合法で定められた範囲でしか事業はできない」組合員のための組織ということか？「だから苦しい」明るい農村は昔のことか...

「経営というものを根本的に考え直さないとJAの明日も明るくない」だから経営品質向上活動ということなんやね。「JAの中では顧客という意識がなかったと思う。意識を変えないと組織は変わらん」グイッと宮崎本店「キンミヤ」を煽ります。

「農協さん」の話聞いていて思い出すのは、組織とは目的にしたがって協働作業を行う人間の集団だという話。時代と言う外部環境が変わり、求められる組織内の協働行為も自ずと変わる。協働行為を更新するには、組織の人々の意識を切り替えないと効果的な更新ができない。しかしそこが効果的に切り替えられない。「辛い...」

だからこそ経営品質に取り組む意味があると「農協さん」は言います。「三重県全てのJAが取り組んでいるわけではないけれど...」もう一つ焼酎に行く。お店は「月の雫」津駅の近くの焼酎専門のお店です。三重県の経営品質関係者のたまり場で、ママは「あきちゃん」と言います。天然系の美人です。農協さんの話題とは何の関係もありませんが、津にお越しの際はどうぞ一度お立ち寄りを。

「生産性新聞を見たよ」と言っていたらと...、たぶん、特典は「ないッ」と思います。